



： 卷 頭 言 ：

使用する側に立った製品の開発

(財)日本植物調節剤研究協会 関東支部長 大嶋保夫

最近、携帯電話を買い換えました。今までの機種は画面が小さく不便なので、テレビで大々的に宣伝している最新のスマートフォンを購入しました。スマートフォンは携帯電話と携帯情報端末を融合させた携帯端末なので、電話機能の他に、パソコン的な利用としてウェブの閲覧・メールの送受信、PDFやWord・Excelファイルなどの閲覧、スケジュール管理、マルチメディアプレーヤー、カメラ、ゲーム、電子辞書、電卓、時計、GPS、テレビ・ラジオ、おサイフケータイなど、様々な機能が付いています。

若い人たちは、この手の機械に順応が早く、素早くボタンや画面を操作し、器用に使いこなしています。私はというと、機能を使いこなす以前に、節くれた太い指では隣のボタンも一緒に触れてしまい、旨く操作もできないありさまです。取扱説明は読むだけでも難儀。文字が小さいので、メガネを取ったり外したり、時間がかかります。小型化・多機能化は便利で良いのですが、取扱説明書は読みやすく、不慣れな者、アナログ人間にも分かり易くして欲しいと思います。

さて、新製品がいろいろ開発されているのですが、私たちの扱っている除草剤はどうでしょうか。専門的に扱っている者にとっては、何の疑問も感じないことでも、稀にしか使用しない人、高齢者は、戸惑っていないでしょうか。水稻の育苗箱施薬のつもりで間違えて除草剤の施用

した事例、散布量や希釈倍率など間違えて葉害が生じたという話をしばしば耳にします。水稻除草剤では処理時の止め水の徹底、畦畔からの漏水、ほ場の均平など、私たちにとって当たり前のことでも、新規参入者や手伝いの中には知らない人も多いのではないのでしょうか。

雑草制御は農業の基本的な課題であり、経営面積の拡大には、除草剤などによる効率的除草法は欠かせません。農業従事者の高齢化などに伴い、労働負荷軽減が望まれます。また、新たに問題として外来難防除雑草の侵入、マイナー作物における薬剤の種類不足などの課題が指摘されています。一方、ポジティブリスト制が導入されるなど、安全性に対する消費者の関心が高まっています。

登録されている除草剤は正しく使うことにより剤の能力を発揮し、農産物の収穫量確保や生産者の労力軽減などの効果が上がります。また安全性が保証されます。私たちの社会的責任を果たすためにも、除草剤は適正に使用されなければなりません。そのためには使用者と直接接する現場の指導者、販売店などの役割は大きいと考えます。一方、使用勝手の良い剤の開発、取扱説明を読みやすくするなど、使用する側に立った製品、使用者に優しい製品の開発が必要です。そのためには現場の意見や要望に耳を傾ける必要があります、当協会が行っている普及適用性試験の果たす役割も大きいと改めて思いました。